

同志社大学

社会学部

Faculty of Social Studies

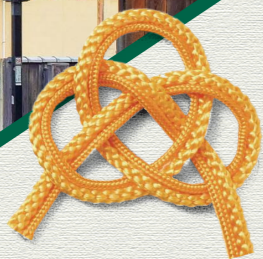
2023





人と社会を**結**ぶ。

未来を**編**み**上**げる。



探究心に応える同志社大学
社会学部の魅力

- ◆ 多様な学びを実現する **副専攻制度**
- ◆ 教室を出て社会を学ぶ **フィールドワーク**が充実
- ◆ 徹底した **少人数教育**で仲間・先生とともに学ぶ
- ◆ 歴史があり、大規模な **総合大学**だからできる学び

INDEX

| | | | | | |
|----|--------|----|--------|----|--------------|
| 03 | 社会学科 | 15 | 産業関係学科 | 25 | 充実したキャンパスライフ |
| 07 | 社会福祉学科 | 19 | 教育文化学科 | | |
| 11 | メディア学科 | 23 | 学びの進化 | | |

※本パンフレットに掲載されている教員・学生等の情報は取材時のものです。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため撮影時のみマスクを外しています。



社会学科



人と社会の関係を幸せに導くため 次々と現れる社会問題を探求

keyword
01

「社会のしくみ」を知る
一見、個人の問題にみえる出来事も、実は社会の動きと連動しています。社会学科では、私たち自身に影響を与える社会のしくみを学びます。

keyword
02

社会調査で「探求」する
社会学は理論だけでなく、調査で集めたデータをもとに社会の諸現象を分析します。社会調査はそのためのツールです。調査実習を通して社会学的想像力を培います。

keyword
03

「脱常識」で考えられる人に
現代では「問題を発見し、それを分析し、解決を図る」人材が求められています。社会学科の学びは多様な視点から「世の中」を理解し、社会の常識を見つめなおす能力を育てます。



Class introduction

代表的な授業



社会学概論

1年次生が社会学の全体像を知り、データの基本的な読み方を学ぶ導入科目。学生はあらかじめテキストを読んで出席し、授業では各自の研究発表を行う反転授業のスタイルをとっています。

教授 鶴飼 孝造

PICK UP!

Event

イベント



ゼミ生の交流会

ゼミは文献を共に読み、分析法を共に学び、卒業論文を完成させる学問的なサークル。苦勞を伴う学びの中で関係は深まります。写真はあるゼミの過去10数年の卒業生を交えた交流会のものです。

教授 小林 久高



Curriculum

4年間の学び

1年次

- 入学式・新入生歓迎会
- 導入教育 (ファーストイヤーセミナー)
- 理論と調査の入門科目履修

2年次

- 基礎演習の履修 (社会学演習I)
- 専門科目の履修開始

3年次

- ゼミ・卒業研究の開始 (社会学演習II)
- 社会調査実習

4年次

- ゼミ (社会学演習III)
- 卒業論文
- 卒業式

※変更になる可能性があります。

教員の紹介



人々の豊かさを創造する 社会調査のプロを養成

右肩上がりの経済成長が望めなくなった時代、人々の生きる選択肢は、社会の新しいしくみを作ることによって広がります。その意味で、社会学は、働き方や生活スタイル、コミュニティの多様なあり方について考察する、可能性の大きな学問。数年前に、私が書いた「地方暮らしの幸福と若者」という本も、東京一極集中が進む中、地方で豊かに生きていくための必要な条件についての考察から始まったものです。学科の教育においては、社会調査のプロの養成を目指しています。「社会調査実習」という授業では、「ローカル志向の京都の若者」をテーマにし、学生たちと足繁く取材に出かけました。また、ゼミでは2年の時間をかけて、卒業論文という作品の完成を目指します。私の指導学生は、地域社会や若者研究に関するテーマを選ぶことが多く、全員が自ら現場取材やインタビューを行って得られた一次データが主役となる卒業論文を書いています。

准教授 轡田 竜蔵



Graduation thesis

卒業論文テーマ一部紹介

- 首里城はどのようにして沖縄の「シンボル」となったのか
- アメカジファッションとアイデンティティ構造
- 音楽ストリーミングの受容から見る脱作品化と受動選択社会
- ディズニー作品における女性像の変化と社会のかかわり
- 食卓の変化からみる家族団欒ーチャブ台に注目してー
- 訪日外国人観光客の増加からみる京都のゲストハウス事情

Student's Voice

就職内定者からのメッセージ



私たちの未来予想図



(株)毎日新聞社内定 4年次生 川畑 岳志

新聞を通して、一隅を照らしたい

社会学は、「社会のシーンで人がどう関わり、その関係はどういった構造の下にあると言えるかを探求する学問」だと思っています。シーンごとの現実を知り、いくつもの視点から事象を見直すと、違和感に気づいたり、ほんやりとして言葉にならなかった事象が言葉になっていたりする面白さがあります。講義で社会問題の存在を知っていく中で私が選んだ就職先は新聞社です。自分の問題意識に従って、「日常」になってしまいがちな問題に目を向け、記事にすることで多くの人に伝えることが

出来る、また、自分の生きてきた人生のリアルだけでなく沢山の人生を知ることが出来る、記者という職業に惹かれました。社会学科では、一つの事象をそれ自体だけを見るのではなく、起こった環境、背景を知り、複数の視点を持って捉えることを学びました。現在、卒業論文執筆に向けてインタビューを実施していて、この経験は社会人になっても活かします。今思っている自分の目標は、「嫌いなにならないでいられる自分」「気持ちや言葉だけでなく行動でもって、自分の周りの人を大切にしたい」です。



Basic information

基本情報

目指すことができる資格

- 社会調査士
- 図書館司書
- 中学校教諭一種(社会)
- 博物館学芸員
- 高等学校教諭一種(公民)
- 学校図書館司書教諭

在学学生数 (1~4年次生合計)(2023年4月現在)

375名

過去の留学実績 (派遣留学)

- オスロ大学(ノルウェー)
- カリフォルニア大学(アメリカ)
- ヨーテボリ大学(スウェーデン)
- シドニー大学(オーストラリア)
- リーズ大学(イギリス)
- ニューオリンズ大学(アメリカ)
- ヘルシンキ大学(フィンランド)

様々な切り口で社会問題を探究し、豊かな〈社会学的想像力〉を養う

「社会学」(Sociology)を学ぶ社会学科。社会学の素養を培い、視野を広げます。社会調査

の手法も身につけ、資格も取得できます。



教授 板垣 竜太

3年次生 T.R

3年次生 石田 実久

3年次生 佐野 克竜

助教 マティアス ヴァンオメン

グローバルからローカルまで、幅広く社会への見方を学ぶ

板垣 3人は私のゼミ生ですが、皆さんが社会学科にいられた動機は何ですか？

佐野 専門的なことを学び、幅広い知識を得たいと思って社会学科を選びました。

石田 社会学は、民族や国家などマクロな視点から、家族や学校などミクロなことまで探求できて、両方の繋がりに関しても考察できると思い志望しました。身近なことから社会全体の大きな現象全般を考えられるというのが魅力的でした。

T.R 私は高校で国際問題について学び、大学で深めたいと思っていました。同志社大学にはグローバル地域文化学部がありますが、学びが言語や文化が中心となるので、それよりは国際的な社会問題などを学びたいと思い社会学部社会学科を選びました。

板垣 社会学は、社会に対する見方としての「理論」、社会の調べ方としての「方法」をバランスよく学ぶ学問。理論と方法がしっかりしていれば、どんな対象でも社会学ができます。それこそ、今、目の前にあるコップ1つからでも上げられる学びです。ですから、佐野さんの幅広く学びたいという思いはもちろん、石田さんのように身近なことから大きな社会問題まで学べると考えて社会学科を選ばれたのも良いと思います。また国際問題についても、国際関係論だと国と国の関係に絞られますが、国際的な人の移動や人種・民族など、個人や集団の動きを考えるには社会学が一番です。

佐野 そうですね。ただ、友人から「社会学は何を勉強するの?」って聞かれて困ったことがあり、卒業までに、何を身につけたらいいのか、模索しています。

板垣 ローカル、グローバルに関わらず、社会問題を自分の問題として考えられるようになる力、そして自分の問題を社会問題として考えられるようになる力、つまり「社会学的想像力」を身につけることがポイントです。

佐野 今、ゼミで京都五山送り火の「大文字保存会」の調査もしていますが、こうした小さなコミュニティのことも社会学のテーマとなるんですね。

板垣 そうです。社会学は19世紀に生まれた学問領域ですが、どんな社会にも通用する概念をたくさん生み出し、様々な調査方法を編み出してきました。いつでも、どこでも使えるのが社会学なんです。

佐野 どんな状況でも、自分と社会をつなげて考えられるようにするのが社会学なんです。

板垣 そう思っていれば、私自身は大学と大学院で文化人類学を専攻していました。社会学と文化人類学は兄弟のような関係。ヴァンオメン先生も文化人類学を専攻されていました。

T.R ヴァンオメン先生は、なぜ日本にいられたのですか？

ヴァンオメン 私はオランダ出身なのですが、高校生の頃に、日本の高校に留学し、初めて来日しました。そこでサッカー部に入ったのですが、種目は同じなのにオランダでのサッカーとの文化的・社会的な役割の差があると気づき、さらに日本という国に興味を抱きました。帰国後、オランダのライデン大学で社会学的、文化人類学的視点から日本社会の研究を始め、「日本の部活動」をテーマに論文を書きました。その後、ハワイ大学大学院などを経て、日本に来ました。

T.R 高校生の頃から信念を持って学ばれているのがすごい。テーマも面白いですね。

理論と実践を交えながら社会調査を体験し、知識を深めていく

石田 板垣先生の「国際社会学」では、自分の社会への認識が塗り替えられたことが多々ありました。国境をこえた関係を扱うなかで、たとえば産業社会とナショナリズムの関係といった考え方もできるのかと気づかされました。

板垣 「国際社会学」の視点は、一言で「トランスナショナルな関係性」と言っています。私たちは、無意識のうち一つの国や国民ないし民族、つまり「ナショナル」な枠を前提のものを見てしまいがちです。ナショナルな枠を超えた関係のあり方を考えようとするのが「国際社会学」です。

佐野 在日コリアンの女性を描いたドキュメンタリー映画は印象に残りました。想像を絶する経験に接して、日本社会の問題として放っておけないと痛感しました。

板垣 トランスナショナルな関係性を考えるとき、抽象的な議論よりも、まず具体的に生々しい個人の経験をスタート地点にしたいということで、映像なども積極的に取り入れています。

T.R 私は、「家族社会学」の授業も印象的でした。家族は最も小さな社会と捉えて分析することで、家族の見え方も変わってきました。

板垣 「家族社会学」が開拓した理論はたくさんあります。例えば、父が外で稼ぎ、母が家事や子育てをする家族は、昔ながらのものに思えますが、日本では高度経済成長期に一般化したスタイル。伝統的なものではなく「近代家族」なんですね。ただ、男女の役割にボーダーがなくなるなどといった時代の流れで、家族の形も新たに変化してきています。

石田 データから時代の動きが分かるのも面白かったです。

ヴァンオメン 私は、日本の大学のゼミに興味があるんです。皆さん、どんな風に学んでいるのですか？

石田 社会調査実習と文献講読の2コマに分かれています。社会調査実習では、私たちは大文字保存会と朝鮮学校のつながりなどを調査し学びます。

文献講読では、「レイシズム」つまり人種差別に関する教科書を読んでいて、毎回その理論を学んでいます。

板垣 私のゼミでは、先ほど話してくれた「大文字保存会」と、そのそばにある朝鮮学校を対象に同時に調査してもらって、一見関係なさそうな両者の関係や伝統の保存について、皆さんにじっくり考えてもらっています。

T.R 社会調査実習の朝鮮学校については、先生や保護者の方にインタビューする機会もあって、知識も深まりいい経験になりました。

石田 朝鮮学校が地域のために様々な活動をして貢献しているなど、初めて知ることがたくさんありました。インタビュー方法や発信方法も学んで実践したので、将来にも役立ちそうです。

佐野 朝鮮学校を取りまく、人種差別や偏見なども知ることができました。文献講読で取り組んでいる「レイシズム」と内容がリンクしてきて、さらに学びが深まります。

ヴァンオメン 実践と理論を両立させながら学んでいるのですね。学期を超えて研究コミュニティができるゼミのシステムは、海外の大学ではあまりないことで、すごく興味深いです。

板垣 ゼミの語源はドイツ語の「ゼミナール」で、西欧由来の授業形態ですが、日本の大学の場合、独自に進化した形になっていますね。卒業生と話しても、大学時代の貴重な思い出となっているようなので、存在意義が大きいと思います。

ヴァンオメン ゼミについては文化人類学者としても、教員としても興味深く、私も関わっていきたいです。ゼミで社会調査もされているようですが、社会調査士の資格も取れると聞きました。

板垣 はい。社会調査士については、実習を含め、社会調査協会が認定した科目を履修することで、卒業時に取得できます。就職活動時に履歴書に「社会調査士取得見込み」として書けるので、興味がある方にはチャレンジしてもらいたいです。

柔軟に対応できる思考力と調査方法を身につけ、人生を豊かにする

T.R 社会学科は何でもテーマにできるから、例えば家族など、当たり前だと思っていたことに新しい視点を持たせたことは良かったと思います。

石田 幅広く物事を見られるようになるよね。

佐野 まだまだ知識は浅いけれど、社会問題について改善方法などを考える意識もできました。

板垣 社会学科は国家資格を取ったりなど、手に職がつくところではありません。でも、大学は目先の実益のためにだけあるものではない。知識を広げ、どんなことにも応用できる思考力と方法を身につけておくことは、この流動的な現代社会ではむしろ必要なことです。今後の人生にどう繋がるか分からないのも楽しいことですよ。

ヴァンオメン 私は自分の経験から言っても、大学で学んだことで人生が豊かになったと思います。佐野さんが言われた、社会問題について改善方法を考えるようになったというのも、これまでの学びでたくさんのことに気づかれているからだだと思います。

佐野 ありがとうございます。大学を選ぶ高校2~3年生の時期には、学びたいことは分からない人が多いと思う、それなら社会学科への入学を考えていただければ。

T.R そう思います。私は、国際問題以外の社会学はあまり知りませんでした。入学後、ゼミもゼミ以外の授業も楽しくて、視野が広がっています。

石田 高校生の方には、大学にどんなゼミがあるか、どんな先生がいるかもよく調べてから大学選びをしてほしいです。大学生生活の3~4年次はゼミ活動が中心なので。

板垣 そうですね。私はオープンキャンパスなどで模擬授業をするとき、高校生には、高校までの「社会科」のイメージで社会学を学ばないでほしいと、いつも話しています。もし少しでも社会学科に関心を持つなら、どんな学問かをまず調べてから来てほしいです。とはいえ、大学は出会いの場ですから、何の気なしに、社会学に迷い込んでしまった人も大歓迎です(笑)。

佐野 私も幅広く学びたいと漠然とした思いで選びましたが、学びが充実しているので、どんな方でも学びやすいと思います。

ヴァンオメン 社会学を知ること、自分が知っている社会とは別の社会があることに気づけると思うし、自分の世界を豊かにできます。色々な経験をしに来ていただきたいですね。

社会学科
オリジナルサイト





社会福祉学科



グローバル化・少子高齢化に ふさわしい福祉社会のあり方を探求

keyword 01 実習などの体験型学習を通して実践力を養成
福祉現場での実習や学外プログラムなど体験型学習を通して、社会の課題を肌で感じるほか、獲得した知識と現実社会をつなげることができます。

keyword 02 少人数講座によるアクティブ・ラーニング
少人数の演習や実習では学生が主体となって議論ができるだけでなく、実習成果報告会の運営などを通して企画力やプレゼンテーション力も高められます。

keyword 03 人ひとりが大切にされる社会がどうすれば実現できるかを考える
「一人が大切にされる社会」の実現のために地域でのつながりや支え合いの可能性と支援が必要な人々を支える知識や方法のあり方を学びます。



Class introduction

代表的な授業



ソーシャルワーク基礎実習I
社会福祉学において現場実践との関わりを抜きに語れません。1年次より、ソーシャルワーク基礎実習を必修科目とし、「講義」「演習」「実習」を連動させ、実践の学びとしての学問体系的の修得を目指しています。
教授 野村 裕美

PICK UP!

Event

イベント



課題研究報告会
学生がグループで研究テーマを設定し、文献を読むほか、現地調査・研究にあたるフィールドワークを行うこともあります。討論を重ね、ゼミ内あるいは他のゼミと合同で課題研究報告会を行います。
助教 郭 芳

Curriculum

4年間の学び

1年次

- 入学式・新入生歓迎会
- 導入教育 (ファーストイヤーセミナー、社会福祉入門等)

2年次

- 社会福祉学基礎演習
- ソーシャルワーク基礎実習

3年次

- ゼミ開始 (社会福祉学専門演習)
- ソーシャルワーク専門実習

4年次

- ゼミ(社会福祉学専門演習)
- 卒業論文
- 卒業式

※変更になる可能性があります。

教員の紹介



「一人が大切にされる社会」を実現するために学ぶ

社会福祉学とは、「人々の幸せとは何か?」「その実現のために必要なことは何か?」を考えて実践する学問。「一人が大切にされる社会」の実現のために、地域でのつながりや支え合いの可能性と、支援が必要な人々を支える知識や方法のあり方を学びます。それにより確かな思想と行動力を備えた社会福祉のプロフェッショナルである「ソーシャルワーカー」を養成します。私は同志社大学の伝統的科目である「社会問題論」を担当。様々な社会問題に目を向け、問題の根底にある原因や社会の歪みについて知り、問題意識を育む機会を学生に提供しています。ゼミでは「多文化ソーシャルワーク」や「マイノリティ」というテーマを軸にしています。日本の社会福祉制度や現場の学びを基盤としつつ、日本社会の多様性に加え、広い世界のソーシャルワーク実践や取り組みについて学んでほしいです。社会を変革し、社会と連帯するソーシャルワーカーを目指してみませんか。

准教授 マーサ メンセンディーク

Basic information 基本情報

目指すことができる資格

- 中学校教諭一種(社会)
- 高等学校教諭一種(公民)
- 高等学校教諭一種(福祉)
- 図書館司書
- 学校図書館司書教諭
- 博物館学芸員
- 社会福祉士
- 精神保健福祉士

精神保健福祉士の資格取得に必要な演習・実習科目には学内選考を行うことがあるため、希望しても所定の科目を履修できない場合があります。また、精神保健福祉ソーシャルワーク実習の履修には、所定の科目を履修済みであることを条件にしています。第33回社会福祉士国家試験の合格率は55.6%(45人中25人合格、全国平均は29.3%)、第23回精神保健福祉士国家試験の合格率は87.5%(8人中7人合格、全国平均は64.2%)、と両資格とも高い合格率を誇っています。4年次生では、毎週「福祉士受験対策勉強会」を開催し、国家資格の取得を支援しています。

在学生数 (1~4年次生合計)(2023年4月現在)

392名

過去の留学実績 (派遣留学)

- ・アリゾナ大学(アメリカ)
- ・フィリピン大学 ディリマン校(フィリピン)
- ・香港中文大学(中国)
- ・国立台湾大学(台湾)



Graduation thesis

卒業論文テーマ一部紹介

- 「新しい生活様式」で増加する社会的孤立の実態
- 感染症と人権～新型コロナウイルスを通して差別について考える
- 子どもの自立を支援する
-事前段階の虐待の防止と事後段階の社会的養護について-
- 医療ソーシャルワーカーによる代理意思決定者への支援
-認知症高齢患者のケースにおいて-
- 就労自立支援の課題と可能性
- 障害者差別と福祉教育
-福祉教育を軸に障害理解を広めるためには-

Student's Voice

就職内定者からのメッセージ



私たちの未来予想図



中野区役所内定 4年次生 佐久 歩

行政の福祉職で、信頼される職員を目指す

高齢者・障害福祉、虐待や貧困、子育てや社会的孤立、いじめ、引きこもりなど、現代社会の福祉問題の現実に向き合い、どんな支援ができるかを考え抜いた社会福祉学科での4年間。対人援助のスキルを身につける実践的ワークも行いながら、ソーシャルワーカーとしての技能や知識も身につけました。座学だけでなく、車いす体験や授業内でのロールプレイといった、体を動かして学べる授業があるほか、第一線で活躍する福祉職の方からお話を聞く機会や、実際に現場で業務を行う社会福祉実習など

の貴重な体験も。3年次に実施した社会福祉実習と4年次に実施した精神保健福祉実習では、教科書を読むだけでは気づけない発見や現場の空気、当事者の人柄など、実際に自分の目で見て、感じる事ができ、人としても成長できました。社会福祉学科で学んだ様々な福祉分野に精通しているのが行政の仕事と考え、就職は出身地である東京の福祉職を選択。今後は、社会福祉士と精神保健福祉士の資格取得も視野に入れ、行政の精神保健福祉領域の起点となるように努力していきたいです。

主な就職実績

- 京都市
- (株)滋賀銀行
- エーザイ(株)
- 社会福祉法人京都府社会福祉協議会
- 社会福祉法人愛知県社会福祉協議会
- 阪急電鉄(株)
- 西日本電信電話(株)
- 日本生命保険相互会社
- 独立行政法人福祉医療機構
- 中部電力(株)
- 国家公務員(一般職)法務省
- 東京海上日動火災保険(株)
- 日本郵便(株)
- 住友生命保険相互会社
- 大阪府
- 数研出版(株)
- 大同生命保険(株)
- 積水ハウス(株)

歴史的な社会問題にも向き合い、未来の福祉社会を考える

根底にソーシャルワーカーとしての知識・技能の習得を据えつつ、様々な福祉問題をテーマとし 探求を進めます。



准教授 鈴木 良

4年次生 安野 伊万里

3年次生 近藤 倫

准教授 廣野 俊輔

伝統ある同志社の社会福祉学のもと、幅広い知見を備える

安野 私はASL (American Sign Language) というアメリカの手話動画を見たこと、アフリカのろう者の手話の歴史を読んで福祉を学ぼうと思いました。同志社大学は社会福祉の教育機関として歴史が長く、留岡幸助氏など社会福祉貢献者を多数輩出していることも魅力でした。

鈴木 同志社大学の社会福祉の歴史は長くて、安野さんが挙げてくれた留岡氏など、大正・昭和時代に国内外で活躍した社会福祉リーダーも輩出してきています。

近藤 私は中学の時に、ストレステストを受けたり、カウンセラーと話したりという経験から人の心理に関心を抱き、いざれ支える側に回りたくと思いました。でも心理学より、社会福祉の範囲で心理を学びたいと思い、入学を希望しました。

廣野 同志社大学は心理学部もありますが、社会福祉学科でも支援の一環として、カウンセリングや心理学について学びます。心理学を学ぶためには、社会問題への知見も必要です。例えば、貧困家庭の子どもの支援するためには、カウンセリングも必要ですが、貧困という社会問題を知らないと対応できません。

安野 その話に通じると思うんですが、社会福祉学、心理学と、学びを体系的に区切るのには難しいと感じています。1、2年次に受けた授業では、今の社会福祉制度の体系に沿って、障害福祉、児童福祉、高齢者福祉と分かれていたんですが、私は全て興味があったのでジレンマを感じました。だから、3年次に鈴木先生のゼミで、「福祉の当たり前を疑う」ということを教えていただいたときは目からウロコで、制度にとらわれずに福祉のあり方を見つめ、哲学や教育学などの考えも視野に入れながら、対話を重ねていくというやり方に共感を覚えました。

廣野 学びは全て繋がっているんです。例えば、経済学に無知では社会福祉が理解できないし、心理学のことを知らないと相談援助活動のことは語れない。年金財政が悪くなれば不況になり、失業が増えて自殺も増えるなど、様々な問題は社会の中で連鎖しています。学びを福祉に限定せず、幅広く研究していいと思います。

鈴木 そうですね。ただ、社会福祉学科が軸とするのは、社会福祉のあらゆる領域のソーシャルワーカーとしての知識・技能の習得。その基盤を持ちつつ、幅広く学んでほしいです。この学科では、社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験受験資格も取得できます。

安野 国際社会福祉実習や社会問題実習などの機会もあり、私も海外研修に参加させていただき、様々な知見を得られました。先生にお聞きしたいのですが、なぜ今、社会福祉を学ぶ必要があると思われますか？

廣野 人は1人で生きていけないからだと私は考えます。社会福祉は一人ひとりが幸せに生きていくため、人と人の助け合いを研究する学問です。

安野 今だからというわけではなく、人間の根本的なことなのですね。

近藤 私は、今後の日本の社会福祉がどうなるかを先生に聞きたいです。今、福祉方面にもAIが導入されていますが、人と人の支援はどうなっていくのだろうと。

鈴木 機械化が進んでも、人間の辛い現実に向き合う力が支援に欠かせません。苦しみに寄り添い共に歩む勇気と人を信頼する力を備えた人間性を持つべきという点はずっと変わらないと思います。これは同志社教育の原点である「良心」を育む教育にも通じますね。

被爆者の研究、福祉の支援について。尽きない課題に向き合う日々

安野 私は長崎県出身で、高校時代から核兵器廃絶の署名集めなど、平和教育の活動を続けており、多くの被爆者と出会ってきました。卒業論文は、「長崎における戦後被爆者の生活上の困難と生活戦術に関する研究」をテーマに取り組んでいます。

鈴木 被爆者の方はずっと生活上の困難と戦ってこられたのに、これまで大学の社会福祉でも学会でも、「被爆」は取り上げられてきませんでした。社会福祉はもちろん、人類学や社会学の見地からも、考えるべきものだと思います。安野さんは、当事者のもとに赴き、関係を作り、声を聞き取って、何を社会に訴求すべきか考えるという、独自の研究スタイルを築いていますね。

安野 授業で教わった社会福祉調査に加え、鈴木先生からライフヒストリーのことや質的調査の方法を教わったことで、自分なりに研究を進められています。今は、さらに研究を進め、戦後被爆者の生活のあり様を描き出したかと思っています。被爆者について、1945年の被爆の瞬間や当時の様子は語られたり、文章に残っていたりしますが、被爆から今に至るまでの生活や人生については、ほぼ記録に残っていないんです。私が話を聞いた被爆者達は人生の中で、社会的で政治的な出来事と関連する様々な困難に出会っています。例えば、女性の被爆者は結婚や出産のとき、被爆経験が重荷となるといった経験をしています。そうしたことを生活史として書き残し、伝えたいです。

廣野 素晴らしいです。現場に飛び込み人と関わる点では、近藤さんも独自の取り組みをしていますね。

近藤 私は児童福祉分野と教育に関心があり、学童保育でアルバイトをしています。現場に入ると、大学の学びが理想論だと感じることもあります。

廣野 血気盛んな意見だ(笑)。でも、同志社大学創設者の新島襄も、このくらい気概がある学生を歓迎していたし、いいと思います。

近藤 中学時代から、児童福祉の支援などをやっていました。今は、ソーシャルワークに少し関わり、病院の付き添いなども経験したのですが、思っていた以上にハードで、今後どのように学ぶか迷っています。先生にお聞きしたいのですが、支援する側が当事者意識を持ちすぎると感情移入しすぎて巻き込まれていきませんか？ 寄り添い方がわからなくなることがあります。

鈴木 感情移入も大事だけれども、少し距離をとって、その苦しみに対してどうやってアプローチすべきかを冷静に見ることが大切ですね。

安野 近藤さんと同じような経験が、私もあります。友達が精神的に不安定になったときに相談を受け、自分も辛くなってしまったことがありました。でも、共感することを「相手の靴を履く」と英語で表現するけど、履いた後はその靴を脱いで自分の靴を履くことが大事だと、社会福祉実習の実習中、現場の方に教えてもらって、まずは自分自身を大切にしないと知りませんでした。

鈴木 同志社大学には「一人一人大切に」という新島の言葉のもと、一人ひとりが大事にされるという背景がある。自分を大切にしつつ支援するという考えにも、通じますね。

学生時代の学びから広がる夢、世界へと目を向けて

近藤 私は小学生の頃にイギリスとドイツで生活していたのですが、日本に帰国して小学校に入ったとき、学校がつまらないと感じて、学校教育に違和感を抱いたことがあります。その思いもあって、知り合いが立ち上げたフリースクールに携わって学んでいます。子どもたちが自然の中でたっぷり遊んだり、ディスカッションしたりという学びの形を取っているユニークなスクールです。この経験をもとに、新しい教育の形を打ち出したいです。

安野 具体的にやりたいことってあるんですか？

近藤 今は大学受験に向けて中学からの教育がありますけど、それ自体を変えたいと思っています。私のように、学校がつまらないと感じた子どものため、楽しい教育現場を提供できたらいいなと…。

安野 すごく素敵だと思います。

廣野 スケールの大きい夢ですが、同志社の学生らしくて、我々の誇りですね。

安野 私は卒業後、同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻に進みます。前期課程1年次の秋学期から「同志社新島スカラー」派遣留学生としてアメリカのアーモスト大学に3年次編入予定です。アメリカの社会問題や日本との文化的・制度的な違いも見つつ、人類学や社会学の理論・方法論の基礎的研究に力を入れたいです。併行して、長崎の被爆者の生活史研究も進めていきます。

廣野 平和教育の活動も続けるんですね。

安野 はい。平和教育については大学4年間で活動を広げ、今は真珠湾攻撃を経験したハワイと被爆を経験した長崎をつなげる働きかけをしています。戦争という文脈の中で悲惨な経験をした人々を連携することを目標とした交流をしていて、オンラインで被爆者の話を聞く機会を設けるなど、総合学習講義を行ってきたので、今後も続けたいです。

鈴木 様々な経験を活かし、ぜひ世界に羽ばたいてください。私も大学卒業後、パレスチナ難民キャンプ支援のため、現地に滞在した経験があります。近藤さんも帰国子女として、海外と日本の教育の違いに衝撃を受けたようですが、日本という枠組み内からは見えないことって多いです。ぜひ、文化圏や社会背景が違う人ともふれあって学びを深めてほしいです。お二人とも、今の研究を大切に、色々な角度から既存の枠組みを壊す人になり、夢を叶えてください。

近藤 はい。実現していきたいです。

安野 グローバルでマクロな視点から日本を捉えることを意識しつつ、前進していきます。

社会福祉学科
オリジナルサイト



メディアが映し出す現実とは何か？ メディアの現状や問題を探求

- keyword 01** 情報社会、インターネット、スマートフォン、SNS
私たちはインターネット、スマートフォンが普及した情報社会に生きています。メディアが社会に与えた影響を歴史学や心理学、文化人類学などの観点から検証します。
- keyword 02** ジャーナリズム、フェイクニュース、ジェンダー
誰もが情報発信する「自由」を享受すると同時に、誤っていたり、ジェンダー的偏見などを助長したりするような情報が広まりやすい情報社会の課題を分析します。
- keyword 03** マンガ、アニメ、広告、メディアリテラシー
マンガ、アニメ、広告、映画、ニュースなど、多様なメディア・コンテンツを分析してメディアリテラシーを高めることで、よりよいメディア文化の将来像を考えます。



Class introduction 代表的な授業



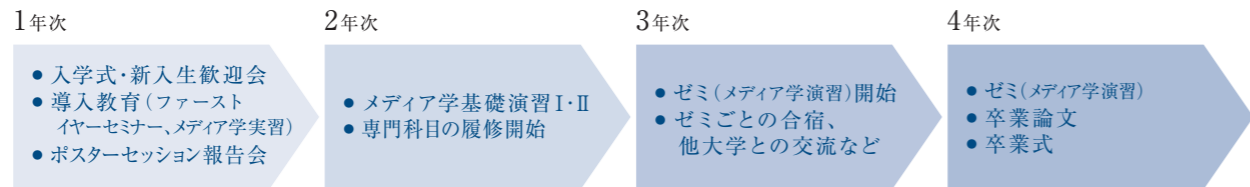
コミュニケーション論
見て、聞いて、話すほか、様々な形式の「コミュニケーション」が私たちの社会には存在します。そうした日常に溢れる営みを、社会学、メディア研究の知見を活かして捉え直し、理解を深めていきます。
助教 水出 幸輝

PICK UP! Event イベント



関西私立大学広告論ゼミ合同勉強会
広告を学ぶゼミでは、関西の他大学と毎年勉強会を開催。秋の合同発表会に向けた取り組みによってゼミ内での関係が深まります。広告に興味を持つ他大学の学生とも批評し合い、学びを深めます。
教授 竹内 幸絵

Curriculum 4年間の学び



※変更になる可能性があります。

Basic information 基本情報

目指すことができる資格

- 中学校教諭一種(社会)
- 高等学校教諭一種(公民)
- 図書館司書
- 学校図書館司書教諭
- 博物館学芸員

在学生数 (1~4年次生合計)(2023年4月現在)

377名

過去の留学実績 (派遣留学)

- 延世大学(韓国)
- カリフォルニア大学(アメリカ)
- メルボルン大学(オーストラリア)
- コロラド大学 ボルダー校(アメリカ)
- シンガポール・マネジメント大学(シンガポール)
- ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)
- ウェスタンミシガン大学(アメリカ)
- サラマンカ大学(スペイン)

教員の紹介



多様な観点から研究し メディアを理解する

講義ではメディア史、ジャーナリズム史を担当しています。いま私が取り組んでいる研究は、メディア業界出身の政治家である関和知について。明治から大正にかけての国会議員である関の伝記を書くことで、メディアと政治という2つのシステムを、人材供給という側面から明らかにする試みを行っています。彼の家は貧しく、苦勞して教育を受け、自ら雑誌を立ち上げます。やがて、その雑誌を新聞社に成長させ、そこを出発点に政治家へと出世します。メディアが次へのステップになるというのは、現代にも通ずる現象だと思います。授業には、こうした最新の研究成果を盛り込んでいきます。メディア学に興味のある人は、コンテンツを取り巻く政治経済、社会の様子を忘れがちです。歴史的な視点で、距離をおいてみると、コンテンツの政治性や、経済的限界、社会問題との関わりが見えてきます。多様な観点からメディアを理解する手がかりを、この学科でつかんでください。

教授 河崎 吉紀

Graduation thesis 卒業論文テーマ一部紹介

- 現代における音楽雑誌の存在意義
ー音楽ファンが音楽雑誌に求めるものとは
- Netflixオリジナル映画における女性監督の増加とその要因
- メディアの報道量と各スポーツの関係
- 新聞社とポータルサイトのニュース分析
ーYahoo!ニュースの掲載状況から
- YouTubeへのゲーム実況動画投稿における
タイトル及びサムネイルと再生回数
の関係
- メディア・コミュニケーションによる公共圏の可能性に関する考察

Student's Voice 就職内定者からのメッセージ

私たちの未来予想図



(株)バンダイナムコエンターテインメント内定 4年次生 濱野 瑠月

ゲームを通じて、全ての人間を幸せにする

メディア学科では、マスメディアを中心とした文化やそれが与える民衆や社会への影響を体系的に学びます。2年次に受講したジャーナリズム論では、ニュースの報道で起きたトラブルを学びつつ、ディスカッションを通じて理解を深められました。そして情報が人に与える影響や、それによって起きる事態を学ぶうちに、「自分の思いや、熱を最も人に届けることができる媒体とはなにか」と考えるようになりました。やがてゲームという媒体が与える双方向の体験が、人々の心を動かすことができると考え、ゲーム業界を志望するようになりました。内定先では自分が幼少期から親しんできたコンテンツを多く扱っており、直接携われることが楽しみの一つです。今後は自らのアイデアを言語化する能力を高め、様々なコンテンツを人々に届けられるプロデューサーを目指していきます。どのように効率よくアプローチすれば、人の心に影響を与えられるのか。メディア学科で学んだことを活かして、人に幸せを与えられるエンターテインメントを生み出したと思っています。

主な就職実績

- 一般社団法人共同通信社
- (株)電通
- 有限責任監査法人トーマツ
- 京セラ(株)
- 明治安田生命保険相互会社
- (株)TBSテレビ
- (株)中日新聞社
- 野村證券(株)
- 日本ハム(株)
- (株)京都銀行
- サントリーホールディングス(株)
- 住友生命保険相互会社
- (株)報知新聞社
- 森永乳業(株)
- 日本銀行
- 中央出版(株)
- リコージャパン(株)
- (株)バンダイナムコエンターテインメント

メディアが映し出す情報を様々な角度から捉え、社会で生きる表現方法を追究

情報化社会において重要性を増すメディアについて学ぶメディア学科。SNSやオンラインの学びも含め、社会問題とメディアの関係についても学びます。



3年次生 梅谷 悠祐

教授 小黒 純

4年次生 梶田 葵衣

3年次生 佐藤 綾香

4年次生 上辻 創太

社会を動かすメディアの存在を学び、様々な場面で役立つ知見を広げる

上辻 私は、日常的に接するテレビ、新聞、ラジオ、ネットニュースなど、メディア全般に興味があり、メディア学科を志望しました。皆さんは？

梶田 理工学部がある京田辺市が地元で、同志社大学は身近な憧れの存在だったんです。その上、高校時代にはテレビ局で働きたいと思っていたので、メディアについての基礎知識や映像に触れられるメディア学科へ来ました。

佐藤 最初は、近現代の軍事史を学びたいと思っていました。でも、高校3年次に社会学部のパンフレットの中に、「M-1グランプリが芸人に与える影響」という、メディア学科生の卒業論文を見つけ、衝撃を受けました。実はお笑い大好きなのですが、自分の趣味が学びになるとは思ってもみなくて、志望先をメディア学科へとガラッと変えました。

小黒 卒業論文のテーマが入学志望の動機になっているとは驚きですね。

佐藤 他にも人気アイドルのことをテーマにしている方もいて、幅広く勉強できそうだなと思ったんです。

梅谷 私は映像の分野に興味を持って、メディア学科を選びました。この学科は本当に様々なことを実践的に学べますよね。

梶田 そうですね。私は今4年次生で、来年春から社会人なので、メディア学科で学んだことを今後どう活用していけるのか、とても気になっています。

小黒 メディア学科では社会問題とメディアの関係や、メディアを通して文化を豊かにするための解決策を追究していきます。必ずしもメディア業界の企業に就職するための学びではありません。例えば営業職に就いたとしても、メディアを活用して情報発信する機会があるでしょう。その場合、

メディア全般を理解していれば、商品の販売企画をどのように打ち出すべきかを考えられるはず。どんな分野で働くにしても、メディアと関連することは数多くあります。

梶田 なるほど、業界を問わず、メディアについての学びは役に立つ機会がありそうですね。

佐藤 卒業生は様々な業界に進まれている中、メディア学科の在学学生にはジャーナリスト志望者も少なくありません。ゼミでもジャーナリズムを学んでいます。今はニュースなどでも、SNSは外せないポイントなのでしょうか。

小黒 SNSがなかった時と全く違う世界になっていると考えた方がいいですね。ジャーナリズムの在り方は時代によって大きく変わっていきます。様々な人にニュースを目にしてもらうためにも、時代の流れに沿った新しいジャーナリズムの形を考えていくべきです。創造は新しい世代の役目なので皆さんに期待しています。

梅谷 マスコミ志望で記者として働きたいと思っています。先生はなぜ記者から大学の教員になられたんですか？

小黒 記者時代から大学生に教える機会があったんです。現場経験を活かして、ジャーナリズムを教えたいと思い、大学教員としての仕事が始まりました。記者として経験したことを、ゼミなどで活かし、学生には取材や編集の実務を積み重ねてもらえればと思います。

梅谷 記者としての仕事はもちろん、そこに伴う緊張感や責任感も疑似体験しながら学べるので、力になっていることを実感しています。

取材や編集、記事や映像制作。ジャーナリズムを体験しメディア学を追究

小黒 4人とも私のゼミに所属して、取材・編集・発信という実践中心の「超実践的プログラム」で学んでいます。どう感じていますか？

梅谷 現役の記者職の方とお話したり、実際のニュース記事制作に挑戦したりと、貴重な経験ができています。ファクトチェックの取り組みも、新たな発見の連続です。

小黒 ファクトチェックとは事実確認のこと。例えば、政治家の発言が正しいかどうかを徹底調査する。最近は、SNSでフェイク画像やデマが流れることも多く、ファクトチェックは欠かせません。ただ、調べて終わりではなく、記事にして、世の中に送り出すところまでが記者の活動です。

梅谷 はい。記事制作したとき、先生やニュースサイト「InFact」の編集部の方に、何度もチェックいただいて、記事を修正するという作業を繰り返し、たった1つの記事を作る難しさを痛感しています。

佐藤 私は熱海の土砂災害の記事に取り上げました。事故の原因がソーラーパネルの設置のせいではないかとSNSで情報が流れ、Google Earthなどを使い、ファクトチェックをしつつ作成しました。ただ、その記事は時期的に合わなくなってしまい、出すことができなくて…。

小黒 記事が出なかったことはやはり悔しかったですか？

佐藤 はい。でも、実際にメディア業界で働き出したらもっと高いハードルもあると思うので…。難しさを早く味わえて良かったと思っています。

小黒 4年次生は卒業論文にも取り組み始めていますね。

上辻 東京2020オリンピックの報道について、新聞社ごとの記事の内容比較を卒業論文のテーマにしようと思っています。様々な記事を集めてみると、五輪について1面で扱うものもあれば、社説で述べているものもあって、新聞社ごとにニュースの扱いがかなり違うんです。情報量の多さにも四苦八苦しています。

小黒 期間ごとに区切って記事を集め、成果が出そうなら続ける。難しそうなら立ち止まって考え直してみてもいいですか？

上辻 ありがとうございます。新聞社ごとに論調が違うのも面白いと思うので、しっかり分析して卒業論文を仕上げたいです。

梶田 ゼミの一環で、大学近くのお店を取材して、インタビューして、映像制作をするなどしてきました。卒業論文では、ホラー映画を取り上げ、作品の中に出てくる風刺の要素から社会問題を見ていこうと、内容分析を始めているところです。

小黒 「ゼミのテーマは自分で自由に決めてください」と言っています。皆さんが好きなテーマを掘り下げているのはうれしいことです。卒業論文のために「オンライン自習室」や個別面談の機会を設け、一人ずつ丁寧に接しています。これから卒業論文に取り組む3年次生も、ぜひ個別指導の機会を利用してもらえたらと思います。

世に溢れる情報の見方を知り、未来に生きるための糧に

梶田 入学前と今では、テレビや雑誌のほか、ネット動画など、メディアに対する見方は変わりました。メディア学科で情報の流れやコンテンツの存在意義などを考えてきたからだと思います。フェイク画像やフェイクニュースの存在も知り、情報を簡単に鵜呑みにせず、自分で一旦考えてみるという姿勢も加わりました。

佐藤 梶田さんが触れたフェイク情報は、情報が溢れる現代社会だからこそ顕在化するものだと思います。受け取る側が情報の取捨選択をしなくてはいけません。

上辻 そういう意識を持っていたのは、メディア学科で学んだからでしょう。この学科に入り、報道からサブカルチャーまで、幅広く学べたことも良かったと思います。

梅谷 メディア学科で学び、社会で生きるための知識が広がりました。ゼミでも、授業でも、取材や記事制作、映像制作など、実践的な経験を積んでいます。

小黒 体験しながら学ぶのは、自分ができるとは何かは気付く、良い機会だと思います。皆さんはコロナ禍という稀有な時期を大学時代に過ごしました。そんな中で、オンラインで繋がってインタビューするなど、新しい体験もできていることを前向きに捉えてもらいたいです。

佐藤 はい。最近、小黒先生の授業で、韓国のソウルにいる学生と、東京にいるゲストと、そしてキャンパスとの3拠点をオンラインで繋ぎながら一緒に学ぶ機会がありました。好きな映画「ターミネーター」の中で、世界中の人が同じ授業を受けるシーンがあるのですが、それと同じだと感動してしまいました(笑)。社会は進化しているなあと。

小黒 かつてはあり得なかったことが現実になっているんですね。私自身、テクノロジーを駆使して、教育を進化させていきたいという思いがあり、皆さんがこれまで以上に有意義に学べればと思います。

佐藤 はい。新しい取り組みができるのは楽しいです。私自身は、この学科で人気マンガやテレビドラマの分析ができたことも印象的です。エンタメ系を始め、自分が好きなことに打ち込める学科ですね。

梅谷 記者を目指す私にとっては、身になる学びが充実している学科です。今、高校生でジャーナリズムに関心があるなら、ぜひ入学を視野に入れてもらいたいです。

上辻 ファクトチェックの一環で、新聞社に情報源確認をしたり、米国のNASAに英文メールを送ったりするなど、高校生の時には考えられないような体験ができました。社会人の一歩を踏み出す前の学びの場としてもおすすめです。

梶田 趣味や好きなことがない人にも、この学科で学ぶことをおすすめしたいです。学びながら探してもいいんじゃないかなと。

小黒 そうですね。メディア学科では、学生が自由にテーマを見つけ、自分で学びのプランを立てて進めます。その中で迷いや悩みを感じる場合は、教員がサポートしていきます。自分の道を自分で決めて歩いていく。その第一歩にふさわしい学科だと信じています。





産業関係学科



“働く”を学ぼう 仕事と社会を考える

- keyword 01** **社会を映す「鏡」を持つ**
定着した「仕事」のあり方には、経済事情だけでなく、その国の歴史や文化が反映されています。「仕事」を見つめることを通じて、日本社会の実相に迫ります。
- keyword 02** **グローバルな視点から、日本の企業社会を考える**
海外に展開する企業経営の課題を考える。国際比較を通じて、互いの違いを「発見」する。産業関係学科の学びでは、グローバルな視点からの学習を重視しています。
- keyword 03** **「働き方」をデザインする**
女性活躍やワークライフバランスなど、日本では「働き方改革」が大きな社会課題となっています。「働き方」をデザインする。創造的な学びを重視しています。



Class introduction

代表的な授業



産業関係実習I・II

春学期は世界の雇用・労働事情について各国研究の第一人者を、また、秋学期には日本の雇用・労働事情について最前線で活躍されている人事部門や労働組合の実務家をお招きし、お話を伺った上でグループワークとプレゼンテーションを行います。

准教授 樋口 純平



Event

イベント



学生研究報告会

3年次のゼミで取り組んできた研究内容を発表する「学生研究報告会」を毎年1月初旬に開催しています。産業関係学科の1・2年次生も参加して各ゼミの報告に耳を傾け、最後には教員と下級生の投票によって順位が決められます。

准教授 樋口 純平

Curriculum

4年間の学び

1年次

- 入学式・新入生歓迎会
- 導入教育 (ファーストイヤーセミナー)

2年次

- プレゼミ (産業関係学文献演習)
- 専門科目の履修開始 (産業関係論等)

3年次

- ゼミ (産業関係学演習) 開始
- ゼミ対抗 「学生研究報告会」

4年次

- ゼミ (産業関係学演習)
- 卒業論文
- 卒業式

※変更になる可能性があります。

教員の紹介



守破離の心構えで学んでほしい

人が働くということ、労働や雇用について多角的に学ぶ産業関係学科には、経済学、法学、経営学、心理学、統計学、キャリア論といった様々な専門性を有した教員がそろっています。私が担当する組織行動学の授業では、日本人労働者の組織に対する帰属意識や、組織におけるフォロワーシップについて学びます。フォロワーシップとは人間学そのもの。私たちは、本来的に「homo audiens」、すなわち、従う人なのです。しかし、真の組織人として成長するためには、従うだけではなく、組織を健全な方向に進めるためにも、自らを制御する必要があります。まずは、守破離の心構えを持ち、我々教員が与える知識や考え方を受け入れ、身につけた後に、それらを客観的かつ懐疑的に観て、学んだことを修正・改善。それを起点に新しい考え方へと昇華させてください。働くことは生きること。この学びは、大学を卒業してからも大いに活かせることでしょう。

教授 松山 一紀

Basic information 基本情報

目指すことができる資格

- 中学校教諭一種(社会)
- 学校図書館司書教諭
- 高等学校教諭一種(公民)
- 博物館学芸員
- 図書館司書

在学生数 (1~4年次生合計)(2023年4月現在)

347名

過去の留学実績 (派遣留学)

- ウェスタンミシガン大学(アメリカ)
- ウェリントン・ビクトリア大学(ニュージーランド)
- 香港城市大学 人文社会科学学院(中国)

Graduation thesis

卒業論文テーマ一部紹介

- 主夫家庭の抱える葛藤について
- 子どもの貧困における発生と連鎖のメカニズム -就労と教育の観点からの分析-
- スポーツから考えるリーダーシップ論
- 女性の人材育成を阻む人事制度 -なぜ女性はキャリア形成できないのか-
- 中小企業のこれから -後継者問題を考える-
- 共働き社会の少子化対策

Student's Voice

就職内定者からのメッセージ

私たちの未来予想図



KDDI(株)内定 4年次生 若林 徹

目の前の当たり前を疑い、新しい答えを見出したい

産業関係学科では雇用と労働について探求し、「自分を自覚し、自分のために生きる」ことが身につきます。授業では男女間賃金格差や長時間労働などの社会問題について、根底にある原則から紐解き、経営者やソーシャルワーカーといった現場で奮闘される方々から生の声を聞く機会が多く設けられています。また、「働く」をあらゆる角度から思考し、「社会の一員としての自分を自覚した上で、どのように生きるか」について、教員・学生間でディスカッションもできます。こうした学科での学び

を通じて、日本における雇用の現実を理解し、どのように向き合っていくべきなのか仮説が立てられます。そのため、産業関係学科の学生は仮説を検証するかのように、前向きに就職活動に取り組んでいたのが印象的でした。私は日本の労働市場に合わせたジョブ型雇用制度を導入していること、スタートアップとの協業スタイルに惹かれ、就職先を決定しました。今後も産業関係学科での学びを検証しながら、事業の共創によって「新しい答え」を世の中に生み出していきたいです。

主な就職実績

- 名古屋市
- 岡三証券(株)
- 積水化学工業(株)
- 国税専門官
- SMBC日興証券(株)
- ソニー損害保険(株)
- TOTO(株)
- 西日本旅客鉄道(株)
- 東海旅客鉄道(株)
- 第一生命保険(株)
- 日本電気(株)
- 裁判所職員(一般職・裁判所事務官)
- 東京海上日動火災保険(株)
- (株)村田製作所
- (株)ローソン

雇用や労働に特化して探求し社会を知る、ユニークな学科で学ぶ

産業関係学科では、生きていく上で不可欠な「働く」ことに迫り、現代社会で生き抜く力を身につけます。



4年次生 森本 堅士郎

教授 三山 雅子

4年次生 三谷 なつみ

レポートやプレゼンテーションで社会人としての基盤を築く

三山 お二人は私のゼミで雇用・労働について勉強していますが、なぜこの学科を選んだのですか？

森本 高校で所属していたのが人文科学科で、古都・奈良の貝塚を見たり化石発掘をしたり、遺跡巡りなど様々な経験をしました。そこで古代の村にも労働があって、人と人の繋がりの中に上下関係もあったと知り、社会の成り立ちについて大学で学びたいと思うようになりました。自分の興味と照らし合わせたところ、同志社大学の産業関係学科を見つけました。

三谷 私は、働いて独り立ちしたいと思っていて、働くことについて学び、卒業後に備えたいと思い、産業関係学科に入学しました。

三山 大学卒業後に働く人が大半なので、三谷さんのように考えられる方も多そうですね。入学後、レポートやプレゼンテーションの量が多いことに驚いたのでは？

三谷 他の学部や学科に比べたら多いです。ボリュームもあって。

三山 1年次から毎年10本くらいレポートを書きますよね。少ないものでも2,000字ほどはあり、夏休みの宿題3,000字が2本。2年次の産業関係学基礎論文は8,000字あります。

三谷 はい。1年次のファーストイヤーセミナーの時から、レポートはたくさん書いてきて、試験でもレポートがありました。2週間に1回はレポート提出していて、他学科の人にも「またレポート？」って、びっくりされます(笑)。普段から、気になったことはメモして、調べてレポートに活かすようになりました。

森本 最初は慣れなかったのですが、数をこなして慣れていきました。これまでやった中では、2年次の「産業関係論」が一番の山場でした。ボリュームの

多い文献を2週間で読み込み、自分の意見をレポートにするのですが、文献の内容を理解するだけでも大変で…。

三谷 本当に大変だったよね。でも、産業関係学科は少人数でアットホーム。みんなレポートも助け合っています。

森本 助け合わないできません(笑)。「産業関係論」で取り組んだのは、「欧米と日本の賃金制度の比較」。賃金論と仕事論のほか、そこに根付く文化的な背景まで知ることができて面白かったです。

三谷 私も、日本では勤続年数や個人の仕事ぶりについての評価に対して賃金が支払われますが、海外では個々人の担当している職務に対して賃金が支払われる仕組みであることを知りました。日本に根強く残る同調圧力なども、国民性に由来するものだけとは考えることはできなくて、社会の仕組みも大きく関わっていることを知ることができました。

三山 しっかり理解していますね。中学・高校でレポートを書く機会は少なかったと思うので苦労したでしょうが、その経験は今後絶対活かれます。ビジネスの場では、言葉での表現はとても重要。例えば営業だったら、なぜこの商品がいいのかを言葉で表現し、納得してもらう必要があります。だから、意識的にレポートやプレゼンテーションを多くしています。皆さんがどうやって乗り切ったか気になっていたんだけど、色々工夫もされて、自分自身の変化も感じているようですね。

三谷 はい。レポート作成を繰り返し経験し、自分の思考を動かしやすくなりました。

森本 私も、自分の意見を発信しやすくなり、就職活動の面接でも活かされました。

テレワークや女性活躍、ジェンダーなど現代社会の課題に切り込む

森本 私も三谷さんも今4年次で卒業論文に取り組んでいます。私自身は、「人がどういう働き方をすれば、働きやすくなり楽しく過ごせるか」を1年次生からテーマにしましたが、この学科で様々な業界のことを学び、今は、大きく変化した働き方の中でも「テレワーク」に興味を抱いています。従来の「職場と家を切り離す」形から「家が職場になる」ことで生じるメリットとデメリットを、会社、労働者、生活など様々な側面から考えています。

三山 森本さんは内定先が住宅産業。テレワーク主導の社会になれば家の造り自体が変わるから、その点も気になるんですね。

森本 そうなんです。最終的には住宅産業との関連も卒業論文に盛り込みたいと思います。

三谷 コロナ禍以前からテレワークについて学び、他の学生よりは知っていたけれど、コロナ禍以降に普及して、一足先に知ることができてよかったなと思いました。私は、女性の活躍をテーマに卒業論文を書きたいです。

三山 安倍元首相は女性活躍を政策目標に掲げましたが、職場における女性活躍についても、女性労働者のことだけを考えては実現できません。結局、男性労働者の働き方を変えないと、企業の中で女性がメインストリームに進出していくことはできません。7~8年ぐらい前から、男子学生から「育児休業を取りたい」とか、「結婚したら家族を第一にしたい」と聞くことも増えましたが、いまだに就職活動において、水面下で男女差別が行われていることは、事実としてあります。女性の問題ではなく、社会全体の問題です。

三谷 世の中は変化してはいますが、まだまだ課題はたくさんあるんですね。

森本 幼少期から、男女関係なく一緒に机を並べて勉強してきたので、男女差別を感じたことはなかったのですが、三山先生の授業で様々なことを知りました。女性活躍について、ここ10年、変化しているようで変わっていないんですね。

三山 私が大学を卒業した頃は、男女雇用機会均等法の施行前だったので、企業の女性採用は一般職さへほとんどなかった。そこに比べたら進化はしているけれど、まだまだですね。

三谷 私は女性側の意識がそれほど高まっていない問題も原因の一つだと思います。今読んでいる文献で、女性はいまだに一般職を選ぶ人が多いけれど、やりがいのある仕事を任せれば女性ももっと活躍できるとあったのですが、私はもっと労働時間などに目を向けるべきだと考えています。なぜなら私の周囲には、労働時間を考えると責任の重い仕事はしたくないと考える人も多くて、そのジレンマを卒業論文で取り上げたいです。

森本 でも、最近、SDGsの取り組みも強まっているので、女性の雇用に少なからず影響もあって、今、変換期なのかという気がします。

三山 もちろんSDGsでは、持続可能な社会・経済・環境を実現するのですからジェンダー平等は欠かせません。持続可能な社会・経済を実現するには、女性はもちろんLGBTQや障害者・外国人などあらゆる人が力を発揮できる職場であることが必要です。また、そうした職場であるかどうか、職場環境が企業業績に影響してくるという研究結果もあります。今、日本企業は優秀な外国人を雇用したがっていません。でも、長時間労働や有給休暇が取りにくいといった女性の働きにくい職場に、引く手数多の優秀な外国人が来たいと思うはずはないです。

森本 なるほど。負の連鎖というか…。女性の働き方というだけでなく、働き方に対する全体的な問題だということ、先生の視点はすごく納得できます。

働くことから人生の価値観を見極める有意義な4年間

森本 産業関係学科の学びは就職活動にもすごく役立ちました。企業選びの際、労働条件などを見る時に、賃金制度はもちろん、企業風土についても学んだことが大いに活きたと思います。

三谷 私も、評価制度について選考の段階で臆せず確認することができました。労働・雇用について学んで、社会に対する視点を他の人より多く持っている気がします。

三山 働くことは生きていく上で必要不可欠なもの。産業関係学科は、働く上で欠かせない知識を学ぶという点でも良いと思います。

森本 4年間学んできた実感から言うと、この学科では社会で生きるために必要な自己表現や働き方について学ぶので、絶対損はないと思います。やりたいことが見つからない人にもおすすめです！

三谷 まさに私が、将来何がしたいかわからなくて、夢がなさすぎた人なんです。でもこの学科に入学して、働くことについて学ぶことを選んで正解でした。

三山 高校生の段階で、将来何したいかわからないというのは、特別なことじゃなくて普通だと思います。自分が文系か理系かしかわからないという人だって多い。それならぜひ、働くことについて学ぶ産業関係学科に来てもらいたいですね。社会で生きるために必要な、他人を納得させられる表現力が身につく、未来に役立つ学問である雇用・労働問題について学ぶのはすごく有意義だと思います。実は産業関係学科は日本でただ一つの学科。どうしたら心地良く働いていけるかを考える学びなので、社会全体でも大きな存在意義があります。ぜひ高校生の方に興味を持っていただけたらと思います。

産業関係学科
オリジナルサイト





教育文化学科



グローバル社会に必要な教育とは？ 多様な文化に適応した教育のあり方を探求

keyword
01

学際的な学び (Interdisciplinary Learning)
哲学・歴史学・社会学・心理学などの専門科目の学習を通じて、文化と人間形成を多角的に理解する力を養成していきます。

keyword
02

体験的な学び (Experience-Based Learning)
海外留学やボランティア活動など様々なフィールドで実体験を積み、調査分析能力や問題解決能力を身につけ、自由で主体的な学びを促進します。

keyword
03

技能的な学び (Skill-Based Learning)
多様な教員・学生と共同しながら学習や研究に取り組んでいく過程で、社会において通用する7つの技能(ポータブルスキル)を身につけていきます。



Class introduction

代表的な授業



冒険教育実習

近年の調査では日本の若者の冒険心は低くなっています。冒険教育実習では、EBL(体験型教育)方法に基づき、キャンプ・山登り・自転車ツーリング等で、冒険における人間形成の可能性を探ります。

准教授 ウィリアム スティーブソン

PICK UP!

Event

イベント



仮想クラウドファンディングプロジェクト

新入生科目ファーストイヤーセミナーの総まとめイベント。グループでアイデア共有・ディスカッション・リサーチを進め、「未来の教育文化」のあり方を語るプロジェクトです。

准教授 奥井 遼



Curriculum

4年間の学び

1年次

- 入学式・新入生歓迎会
- 導入教育 (ファーストイヤーセミナー)

2年次

- プレゼミ (基礎演習)
- 専門科目の履修開始

3年次

- ゼミ(教育文化学演習)開始
- フィールドワーク、文献講読など専門研究

4年次

- 卒業論文・卒業研究
- 卒業式

※変更になる可能性があります。

教員の紹介



多文化共生社会における人間形成を学ぶのに最適

本学科では、様々な文化的背景をもつ人々が、成長を阻害されることなく、互いの違いを認めながら、新たな世紀にふさわしい価値をいかにして生みだしていけるかを追究します。最も重視するのは、徹底して「考える」こと。そのために、物事を多角的

に理解し、他者や自然と積極的に関わり、思考をかたちにしていくという3点をバランスよく学びます。これらの学びを大切にしながら教員と学生が「共に」取り組み、多様性の時代にふさわしい新しい教育文化の創造を探っていきます。新しい環境に身をおくことや、なじみのない価値観との出会いは、喜びや驚きだけでなく、時として「居心地の悪さ」をもたらしますが、この中にこそ、解明すべきオリジナルな問いが含まれていることが少なくありません。「居心地の悪さ」を簡単に解消しようとせず、粘り強く向き合うことで、自分ならではの問いを見つけだしてほしいと思います。

教授 児島 明



Basic information

基本情報

目指すことができる資格

- 中学校教諭一種(社会)
- 高等学校教諭一種(地理歴史)
- 高等学校教諭一種(公民)
- 図書館司書
- 学校図書館司書教諭
- 博物館学芸員

在学生数 (1~4年次生合計)(2023年4月現在)

305名

過去の留学実績 (派遣留学)

- リーズ大学(イギリス)
- 復旦大学(中国)
- ウェスタンミシガン大学(アメリカ)
- ロンドン大学(イギリス)
- ハワイ大学・マノア校(アメリカ)
- ユタ大学(アメリカ)
- ウーロンゴン大学(オーストラリア)
- 延世大学(韓国)
- 高麗大学(韓国)
- エディンバラ大学(イギリス)
- オスロ大学(ノルウェー)
- イースタン・フィンランド大学(フィンランド)



Graduation thesis

卒業論文テーマ一部紹介

- 教材のデザインと子供たちーイラストが教材の情報伝達に与える影響についての考察ー
- 歌と祈りによる人間形成ー聖歌隊活動の教育的意義ー
- イギリスにおけるコーヒーハウスとその機能から考えるコミュニティ
- 大学への進学動機と学習成果・教育効果の関連
- Clothes and ESD
- フィンランドの教育文化にみる「豊かに生きる」ための学び

Student's Voice



就職内定者からのメッセージ

私たちの未来予想図



(株)JPホールディングス内定 4年次生 森のの子

平和で豊かな共生社会の実現に貢献したい

幼い頃から多様な価値観や文化的背景を持つ人と関わる中で、どうすれば人々が国籍や言語、文化の違いを互いに尊重して生きていけるのかを知りたいと考え、教育文化学科に入学。受講した「異文化体験実習」では日系カナダ人コミュニティでフィールドワーク、高校時代の留学先であるアイスランドを再訪した際には保育園でボランティア活動に励みました。学生一人ひとりの興味・関心と、自由な学びのスタイルを大切にする本学科で、「教育とは何か」を追究し、1年次から外国

にルーツをもつ子どもたちを支援したほか、ベビーシッターのアルバイトなど、常に学びを实践に移してきました。その中で、子どもたちが大きな力を内に秘めていて、ベースは違っても自分なりに芽を出そうとしていることに気づき、「人生の基盤が形成される大切な子ども時代に携わる」という軸を持ち就職活動しました。内定先は、日本全国で保育園を運営し、子育てを包括的に支援してきた企業。今後も子どもたちの笑顔が溢れる社会をつくるために挑戦していきたいです。

主な就職実績

- 東京都教員
- アサヒ飲料(株)
- 小林製薬(株)
- 東海旅客鉄道(株)
- 大阪府
- (株)南都銀行
- マツダ(株)
- 明治安田生命保険相互会社
- 国家公務員(総合職)文部科学省
- 奈良テレビ放送(株)
- 日本アイ・ビー・エム(株)
- (株)ジェイアール東海ツアーズ
- (株)村田製作所
- 第一三共(株)
- ダイハツ工業(株)
- 刑務官

興味・関心の軸をたくさん持つ人の、好奇心に応える学びがある

多様な興味・関心を抱く学生が集まる教育文化学科。好奇心旺盛な学生たちがそれぞれの学びを広げています。



自分の意見以外も真に理解し、人間性を高める学びの場

奥井 皆さんはなぜ教育文化学科を選んだのですか？

萬谷 私は教育文化学科のWebサイトを見て、タイやカナダで学ぶなどが在学生の皆さんの充実した体験教育の様子を見て直感的に「ここで学びたい」と思いました。

玉利 私も直感です(笑)。オープンキャンパスで奥井先生の「言語教育文化論」の授業を受け、言葉は文字以外にも身振り手振りで伝える手段があると教えていただき、自分の中の想いを言語化された気がしました。

奥井 そうだったんですね。瀬崎さんは4年次生ですが、教育について深く掘り下げて学ぶ強い意思が最初からありましたね。

瀬崎 高校時代に、学校での授業の方法や教員のあり方などに関心を持ち、教育学を志望分野にしたのですが、教員養成の学びを求めているわけではなく、その点、教育文化学科は学校教育だけでなく文化、人間形成に関わる場・事象の全てを学べる点が魅力的だなと。

奥井 教育学系の学部・学科は日本にたくさんありますが、大抵が教員養成を目的としていて、学校教育以外の学びを教育学でやる学部・学科ってほとんどないですよ。

崔 ユニークな学科ですよ。私は教育文化学科の教員ですが、教育学出身ではないんです。萬谷さんと玉利さんも、学校教育とは違う研究をされていますよね。

萬谷 はい。私は高校時代にアフリカのタンザニアに行って、マサイ族と出会い、彼らのことを今後ゼミや授業でディスカッションを通して伝えることで、自分自身の疑問を発見に変えたいと思うようになりました。

玉利 私はゼミのフィールドワーク先に蜜の市を選びました。他にも、酒蔵を研究している人など、様々な研究テーマを持っています。

瀬崎 私は教育学を学ぶと決めて入学したので、みんなが様々な興味・関心の軸を持っていることに驚きました。

奥井 そうですね。皆さんが印象的だった教育文化学科の科目はありますか？

瀬崎 私は、1年次のファーストイヤーセミナーで、様々な文献を読んでディスカッションしたことが印象に残っています。

崔 フィクション、ノンフィクション含め、様々な文献にふれ、教育学に限らず様々なテーマで、自分と世界とのつながりを考えていく授業ですね。

玉利 ファーストイヤーセミナーは私もすごく印象的です。ディスカッションを通して、自分が当たり前と思うことが、他の人は全然違ったりして。日常生活でも、人の考えを尊重しつつ動くようになりました。

奥井 ファーストイヤーセミナーは日本の大学では珍しい取り組みです。様々な文献を読み、ディスカッションで様々な意見を取り入れて、自分をアップデートさせる作業です。ただ、議論が噛み合うまで時間はかかるんですけどね。

瀬崎 振り返るとすごくいい経験でした。自分自身を耕して、4年間の学びの基盤を築くことができました。

萬谷 ファーストイヤーセミナーの中で、私はロールプレイングのディスカッションが印象に残っています。文献を読んだあと、4つのチームで立場を分けてディベートするのですが、自分で立場を選ばず、自分の意見と違うチームの一員になることもあるんですよ。おかげで、人の気持ちや考えを想像して理解する訓練ができました。

玉利 文献の中の、物語の登場人物になりきらないと議論が進まなくて苦労しました。でも回数を重ねることで発言力、発信力を高められたと思います。

高等教育、アフリカ・マサイ族、想いの継承、それぞれのフィールド

瀬崎 私は2年次に受講した「比較教育文化論」で高等教育分野について学び、自分の研究フィールドにすることにしました。今は「大学生の授業における学習行動」というテーマで卒業論文に取り組み、大学生を対象にしたアンケート調査中です。得られた結果から、大学教育の授業改善にも活かしてもらえるような、知見を生み出したいです。

奥井 瀬崎さんの研究は私も関心があります。熱心に学ぶ学生だけではなく、モチベーションが高まり切らない学生も対象にしているところが、現実的だなと。

崔 教員と学生って意思疎通しきれない部分もあるので、私も興味深いです。

萬谷 今は卒業論文の前段階で、フィールドワークに取り組んでいます。アフリカのマサイ族の子育てをテーマにしようと思っていたのですが、コロナ禍で海外への渡航が難しくなり、今は、「馬と共存できる社会」にテーマを変更し、与那国島へのフィールドワークを計画しています。

玉利 なぜ、馬を研究フィールドにしたの？

萬谷 子どもの頃から馬術をしていたから、馬に癒されることが多かったんです(笑)。与那国島にはずっと昔から土着の馬がいて、人と馬のパートナーシップがあったので、私が馬に癒されたようにホースセラピー的なものがあるのでは

ないかと考えています。与那国島の方へのアプローチは、2年次に受講した「基礎演習」で兒島明先生から学んだインタビュー法を使ってアプローチしようと思っています。私と玉利さんは同じ奥井先生のゼミで一緒に学んでいますが、玉利さんは「記憶の継承」という研究の軸を持っているんですよ。

玉利 はい。私は沖縄出身ということもあって、戦争体験者の声の保存や平和教育に興味を持っていました。でも、大学生になり、東日本大震災の被災者の声を聞いたことで、人の想いやモノを繋いでいきたいと思う気持ちが強くなりました。教育以外でもそうしたことを伝えていく手段があると思い、骨董品など誰かの想いが詰まった、古い物を扱う蚤の市のフィールドワークをするようになったんです。

瀬崎 二人の研究フィールドも面白いですね。教育文化学科は、色々な考えや知見を持つ人が集まるので、刺激的です。

玉利 本当ですよね。あと私、「記憶の継承」の一環として、博物館学芸員課程を履修し、博物館教育や資料保存論についても学んでいるんです。博物館には継承すべき物が集まっていますから。

奥井 教育文化学科の学生も博物館学芸員資格取得を目指せすしね。

学生も教員も多種多様でユニーク。想いを育て未来へ

崔 教育文化学科は、教員も多種多様なんですね。私自身も国際関係の歴史を専門として、朝鮮学校の研究をしてきました。社会学とも教育学とも少し違う立場からモノを見ている感じはあります。学生も教員も様々な研究をされていますよね。

奥井 そうですね。学生も教員も、それぞれ色々な軸を持って学びを広げている学科です。教員に興味があるけど教員養成の学びだけでは物足りないとか、日本のことに興味があるけど海外にも目を向けたいとか、みんな一人で複数の軸を持っている印象があります。だから今高校生で、一つのことだけではなく、様々なことに興味・関心があるという人には、おすすめの学科だと思います。

瀬崎 そうですね。私も、教育文化学科で広く学べて良かったと思っています。もうすぐ卒業なので、せっかくだからこの機会に皆さんに聞きたいのですが、大学に入ってから伸びる学生ってどんな人だと思いますか？

崔 素直な人かな。知らないことを「知らない」と素直に捉えられる人のほうが知的欲求も高まって、自分の興味・関心に会えるのだと思います。

玉利 私は、自分の勉強法を見つけた人が伸びるというか、自分の道に突き進んでいくんだろうと思います。

萬谷 私はわくわくすることに素直で、自分らしい冒険を学びに変えられる人が、伸びる人だと考えます。瀬崎さんご自身はどうですか？

瀬崎 授業でも、ゼミでも、何か活動するときに自分が知らないことでも、自分の人生に役立つと考えると前のめりになれる感覚がある人が伸びる人かなと思います。そしてそういう人が、教育文化学科に向いていると思います。

奥井 そうですね。卒業後については、皆さんどうお考えですか？

瀬崎 はい。私は、ゼミの山田礼子先生からたくさんアドバイスをいただき、希望する大学院で高等教育分野の研究を深めることになりました。大学院修了後は、高等教育分野の研究者である大学教員になりたいと思っています。

そう思うようになったのも、奥井先生が楽しく授業をされている姿を見たからなんです。

奥井 ありがとうございます。嬉しいです。

萬谷 私は高校時代に辛い想いを経験したことから、誰もが自分自身を好きだと言える社会を作りたいという夢があり、そんな働きかけができる道を探っています。

玉利 私は想いを継承する、誰かに届けるという行為を基盤としていける仕事ができたらいいなと思っています。博物館学芸員として働く道もあると思いますが、「継承」していくには様々なアプローチ方法があると思うので、私も模索中です。

奥井 3人とも自分なりの想いがあり、この学科を選び学んで来られたので、将来きっとユニークで納得できる道に進むと思っています。でも迷ったり悩んだりしているときは、背中を押す役割を担うのが我々教員だと思っているので、いつでも話をしにきてください。

玉利 励みになります。ありがとうございます。

教育文化学科
オリジナルサイト



■ 学問領域の幅を広げる 副専攻

社会学部には副専攻制度があります。

自分が所属する学科以外の他の4学科を副専攻とすることもでき、横断的副専攻と呼ばれる「ジェンダー」「社会心理」「国際社会」「サイエンスコミュニケーター養成」を副専攻とすることもできます。



👤 ジェンダー

皆さんは、自分が「女」または「男」と、あたりまえのように思っていますか？「オネエキャラ」のメディアでの活躍にみるように、女/男の区別は、実は流動的なものです。家庭的な男性もいれば、仕事にむく女性もいます。「ジェンダー」(社会的・文化的性)論は、女らしさ、男らしさ、とは何かを問いかけます。性別の固定観念をこえて、人としての多様性と自由を追究したい—「ジェンダー」副専攻はそんなあなたのための学びです。

メディア学科 教授 佐伯 順子

🗨️ 社会心理

マスメディアやインターネットのコミュニケーションは、人間が社会的な生き物として、どのように他者の心理を理解し、自分の考えを伝え、コミュニケーションのネットワークの中で生きているかを学ぶことで理解が深まります。インターネットの発達集団や異文化理解の社会心理学の重要性を高めましたし、マスメディアの影響力の心理学は広告や政治の理解にも欠かせません。「社会心理」の副専攻はこうしたことを中心に研究を進めます。

メディア学科 教授 池田 謙一



🌐 国際社会

「国際社会」の語は、大学生の本分である知的挑戦を軽視し、やみくもに海外滞在(旅行・ボランティア)や英語習得(資格・語学留学)といった経験を絶対化するために用いられることも多いです。それでも本副専攻は「国際社会」の名を掲げています。なぜなら、社会を専門に研究してきた本社会学部だからこそ、「国際社会」に対し、体験談や資格へと逃げ込むのではなく、知的に真向勝負できるだけのリソースを用意しているからです。

教育文化学科 教授 吉田 亮

🦋 サイエンスコミュニケーター養成

サイエンスコミュニケーター養成副専攻は、文系理系を問わず参加する学部生を対象に、科学分野で起こる社会問題を正しく読み解き、解説できる人材を養成する学部横断型副専攻です。このような人材は、企業を含め広く社会から求められています。この副専攻を履修することで、社会問題につながる科学技術分野、中でも健康と環境に関わる分野の基礎理解と評価力を習得することができます。研究倫理や科学リテラシーを履修した学生は、今後社会のあらゆる分野において活躍が期待されます。



■ 海外留学体験記

同志社大学では、海外の多数の大学と学生交換協定を締結しています。また社会学部として学部間協定を結んでいる大学もあります。これらの協定校に半年間または1年間留学するプログラムを提供しています。

現地への海外留学

他者を受け入れる強さを持てたオーストラリアでの学び

高校時代、日常的に留学生・帰国子女とふれあう機会があり、物事を多面的に捉える視点を持つ彼らに憧れ、海外で学ぶことに興味が出ました。また「号令のない学校」という本でオーストラリアの教育観にふれ、さらに想いが募り、留学を希望。2年次に、社会学部で導入している国際専修コースで英語力を強化し、3年次に念願のオーストラリア留学が叶いました。私が滞在了したのはシドニー近郊のウーロンゴンという街。現地の大学で、教育学とオーストラリアの文化の授業を履修しました。周囲にいたのは、中国、インド、ドイツ、フランスなど様々なバックグラウンドを持つ学生たち。ディスカッションやグループワークでは、英語で考えを伝える難しさに直面しましたが、共に学んでいた友人が「伝わっているから自信を持って」と言ってくれました。英語が完璧ではなくても受け入れてくれたことで、私自身が「自分と他者を認めて受け入れる」視点が身についたと思います。コロナ禍のため、通常より短い留学期間でしたが、旅行やBBQなど様々なイベントにも参加することもできました。この経験を活かし、他者を尊重しつつ、自分の意見を発信して、一人ひとりが自分を認められる社会づくりに貢献していきたいです。

教育文化学科4年次生 小瀧 志織



国際専修コースとは

社会学部科目を履修しながら、全て英語で授業を行う国際教育インスティテュート科目を履修できるコースです。留学生とともに英語を使った専門的な授業を学ぶことができ、留学と同じような体験ができます。

オンライン海外留学

オンライン留学が将来の目標を設定するきっかけに

映画・メディア産業で働きたいと思い、2年次から本学の留学コーディネーターに海外留学の計画を相談していました。コロナ禍でカリフォルニア大学へオンライン留学し、オンライン授業の後も勉強時間をたっぷり使えました。中でも、映画のシナリオを書いたり、モノローグを演じて動画を課題として提出したりと、実用的なことを学べたことがとても良かったです。また現地のイベントやネイティブの学生とも交流でき、充実した日々を過ごしました。今後は映画のシナリオを書くため、アメリカの大学院へ進学したいです。

メディア学科4年次生 孫 瑜陳



少人数教育

社会学部では少人数のクラスで勉強する「ゼミ(演習)」と呼ばれる授業があり、学生や先生と親しく接することができます。それは大学生活の支えとなり、社会に出てからもそのネットワークに助けられることでしょう。



総合大学ならではのメリット 奨学金制度・サポート体制の充実

14学部からなる総合大学のメリットの1つとして、他学部の講義の多くを社会学部の学生も受講することができます。所属学科に軸足を置きつつ、様々な学部に関心ある講義を履修してみたいかがでしょうか。

同志社大学には学資支援の体制が整っており、在学生のおよそ3割が何らかの奨学金を受給しています。また、保健センターやカウンセリングセンター、生協食堂も完備。安心して学生生活を送ることができます。



就職活動体験記

(株)カヤック内定
社会学科4年次生 福山 空

信頼できる仲間と 乗り切った就職活動、 情報を正しく取捨選択

ずっと関心があった広告業界を志望。広告業界の就職活動に関する本、広告に携わる方の本、広告クリエイター講座、短期・長期インターンシップ、OB訪問等、様々な方法で情報を得て、取捨選択と自己分析を行いました。コロナ禍により、企業の説明会や面接はオンラインが増えていきました。オンラインでは、移動時間が不要で日程調整がしやすい反面、オンラインでコミュニケーションをとることの難しさを感じましたが、広告業界を目指す仲間と連絡を取り、練習を重ねて、克服しました。就職活動に関する情報が溢れていますが、自分にとって、どの情報が必要かを正しく取捨選択することが大切です。また悩みを共有して相談できる仲間がいたことは心強かったです。



One Point!

オンラインでの就職活動を乗り切るためのアイデアを考え、SNSで発信する活動をしていました。反響があったアイデアもあり、就職活動もポジティブに行えました!



新たな学びの空間



ラーニングテリア

社会学部の拠点である臨光館3階ラーニングテリアの一角に社会学部生専用の自習スペースを設置しました。自習スペースは、周囲の視線や音を遮断し、1人で集中できる快適な学修空間です。オンライン講義の受講やレポート作成等に活用されています。

ACADEMIC PLAZA

2023年5月竣工予定の育真館の1階には、主体的な学びを活性化させる「ACADEMIC PLAZA」が誕生します。「ACADEMIC PLAZA」では、大小のスクリーンと可動式の椅子・テーブルにより、イベント・セミナー、ワークショップ、アクティブラーニング等、フレキシブルな学びの空間を創出します。



2023年5月竣工予定の育真館の外観イメージ(北東交差点より)
※法規・景観協議により変更の可能性があります

社会学部生の一日 school life



一人暮らし

社会福祉学科2年次生 高橋 尚也

小学生の時に怪我をして長期入院し、院内学級をはじめ多くの人たちに助けられた経験から、私自身も誰かの役に立ちたいと思い社会福祉学科に入学しました。現在は地域福祉について勉強しながら、キャンパス近くの学生マンションで充実した日々を送っています。コロナ禍ではオンライン授業が多く、新しい友人も作りにくいですが、高校が同じ友人やサッカーサークルの友人と支えあっているのが寂しく感じることはありません。学生生活を充実させるためには、大学のイベントやボランティア活動等にも積極的に参加し、自分に合うものを探すことも大切なことだと思います。今は、社会福祉士の国家試験合格に向けた勉強も頑張っています。



一日のスケジュール

| | | | | | | | |
|-------|------|-------|-------|---------|-------|--------------------|------|
| 8:00 | 9:00 | 12:15 | 13:10 | 18:30 | 22:00 | 23:00 | 1:30 |
| 起床・家事 | 講義受講 | ランチ | 講義受講 | アルバイト活動 | 帰宅・家事 | 授業の予習・復習 ランニング等 | 就寝 |

実家暮らし

産業関係学科4年次生 中野 亜夢

女性の働き方に興味があり、産業関係学科に入学。現在は日本型雇用慣行について卒業論文作成に取り組んでいます。1時間程度かかる通学時間は、課題レポート作成や参考文献を読む時間に充てています。課外活動では2年次から本学の留学生ピアサポーターを務め、コロナ禍以前は京都の観光案内、コロナ禍以降ではオンラインで日本語会話の練習相手をしていました。留学生が帰国する際に「あなたに会えてよかった」と言われてとてもうれしかったです。実家暮らしのためレストランのアルバイトの時間も取りやすく、幅広い年齢の方と関わり、社会勉強にもなっています。



一日のスケジュール

| | | | | | | | | |
|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-----------|-------|
| 7:00 | 8:00 | 9:00 | 12:15 | 13:10 | 17:00 | 22:00 | 23:00 | 24:00 |
| 起床 | 通学 | 講義受講 | ランチ | 講義受講 | アルバイト | 帰宅 | 課題レポートの作成 | 就寝 |



2024年度入試情報

| 試験方法 | 社会学科 | 社会福祉学科 | メディア学科 | 産業関係学科 | 教育文化学科 |
|--------------------|------|--------|--------|--------|--------|
| 一般選抜入学試験 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 大学入学共通テストを利用する入学試験 | ○ | ○※ | ○ | ○※ | ○ |
| 自己推薦(スポーツ)入学試験 | — | ○ | ○ | ○ | — |
| 社会福祉学科推薦選抜入学試験 | — | ○ | — | — | — |
| 教育文化学科自己推薦入学試験 | — | — | — | — | ○ |
| 外国人留学生入学試験 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

■ 一般選抜入学試験

学力検査を中心とした選抜方法です。「全学部日程(文系)」と「学部個別日程」合わせて最大2回の受験が可能です。

■ 大学入学共通テストを利用する入学試験

大学入学共通テストの出題教科・科目のうち、各学科が指定する教科・科目についての成績により選抜します。

(※)社会福祉・産業関係学科は大学入学共通テストの成績に加えて、個別学力検査を実施します。

■ 自己推薦(スポーツ)入学試験

高等学校在学中に学業とスポーツ活動とを両立させた実績を持ち、同時に、入学後も学修意欲を常に持ちながら、体育会に加盟している部でスポーツ活動を継続できる強い意志と能力を持つ者を対象に選抜します。

■ 社会福祉学科推薦選抜入学試験

高等学校在学中に福祉を学び、あるいはボランティア活動・福祉活動・その他社会活動等を継続して行い、あるいはキリスト教徒で、入学を強く希望する者を対象に選抜します。

■ 教育文化学科自己推薦入学試験

これまで主体性をもって「教育と文化」に関するグローバル／ローカルな活動を積極的に行い、今後もそのような活動を継続する意志を持ち、入学を強く希望する者を対象に選抜します。

■ 外国人留学生入学試験

これまで外国での学校教育を通じて培われた基礎学力等を備え、学ぶ意欲を持つ優れた外国人留学生を選抜します。

■ その他

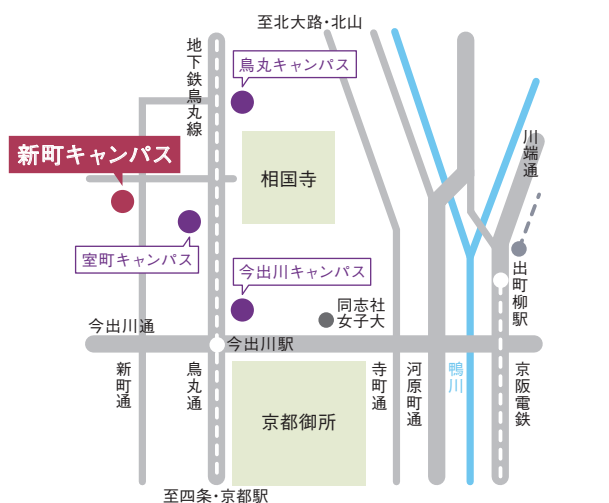
- 一般指定校推薦入学試験 ● 「キリスト教主義学校連携ネットワーク」推薦入学試験 ● 上海日本人学校高等部推薦入学試験
- 同志社国際学院国際部推薦入学試験 ● 法人内諸学校推薦入学試験

※対象の高等学校から推薦された者が受験できる入学試験です。一般の受験生は受験できません。

入試情報は変更になる場合がありますので、詳細は、「入学試験要項」「同志社大学入試ガイド」、本学ウェブサイトなどをご参照ください。

<https://gakubunyushi.doshisha.ac.jp> (外国人留学生の場合: <https://intad.doshisha.ac.jp/>)

アクセスマップ



社会学部に関するお問い合わせ

社会学部・社会学研究科事務室

TEL:075-251-3411 FAX:075-251-3031
E-Mail:ji-shajm@mail.doshisha.ac.jp
〒602-8580 京都市上京区新町通今出川上ル 臨光館1F

入試に関するお問い合わせ

入学センター入学課

TEL:075-251-3210 FAX:075-251-3082
E-mail:ji-nyugk@mail.doshisha.ac.jp
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入ル 弘風館1F



同志社大学
Doshisha University
<https://www.doshisha.ac.jp/>